第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | ジオポリマー・アルカリ活性材料

ジオポリマー・アルカリ活性材料1

座長:花岡大伸(土木),坂本英輔(建築)
2024年6月28日(金) 09:00 ～ 10:30 第1会場 (小展示室A)

[1196]パーム椰子殻燃焼灰を使用したジオポリマーモルタルに関する基礎研究

松本周作[1], 富山潤[1], 入仲良紀[2], 謝花一成[3] (1.琉球大学 2.那覇市役所 3.リュウクス)
キーワード：バイオマス燃焼灰、ジオポリマーモルタル、圧縮強度、流動性、CO2排出量削減

脱炭素社会構築への取り組みとして，沖縄県では2021年7月にバイオマス発電所(「沖縄うるまニューエナジー(株)　中城バイオマス発電所」)の運営が開始され，燃料にパーム椰子殻を使用し，年間6,000t～7,500tのバイオマス燃焼灰が排出されている。燃焼灰の有効利用として，コンクリート用混和材やバイオマス系泥土改質材へリサイクルされ，土木工事，農地改質，牛舎の敷料などに利活用されている。本研究では，燃焼灰のさらなる利活用を目指し，パーム椰子殻燃焼灰をベースとしたジオポリマーモルタルを対象に，強度特性，流動性，CO_2排出量の削減効果に関する基礎的検討を行い，良好な結果を得た。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会